

令和5年度第1回山口県総合教育会議議事録

1 日 時 令和5年9月21日（木）16:00～17:00

2 会 場 山口県庁4階共用第1会議室

3 開 会 （事務局）

4 知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に御尽力をいただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。また、本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただき、感謝申し上げます。

本年5月から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられた。学校行事や各地のイベントも本格的に再開され、子どもたちは、いろいろな体験をし、たくさんの思い出をつくることのできているのではないかと思っている。

さて、本県では、デジタル化等の社会変革などにより、将来を予測することが困難な時代にあって、新たな未来を切り拓いていく「人づくり」を推進するため、「新たな時代の人づくり推進方針」に基づく取組を展開している。

昨年策定した「やまぐち未来維新プラン」にも推進方針を反映し、「新たな時代の人づくり推進プロジェクト」を掲げて、市町や学校、地域、団体、企業の皆様と連携・協働し、新たな時代に対応した人づくりを推進している。

その中で、昨年度、東京大学先端科学技術研究センターと連携協定を締結し、最先端の学術的知見やノウハウを活用しながら、子どもたちが主体的に学ぶことができる力を育む取組などを今年度から本格的にスタートしている。

また、教育委員会においては、乳幼児期における教育・保育の質の向上に向けた保育者に対する支援体制の強化や、全国に先駆けて整備した1人1台タブレット端末等を活用して行う学びの充実、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを見守り、支援する地域連携教育等が推進されている。

本日お示しする教育大綱の案も、推進方針を基に国の動向等を踏まえて再構築しており、引き続き、人づくりの取組等を積極的に推進することとしている。

とりわけ今後は、教育におけるDXを進め、データを活かした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、誰一人取り残されることのない学びの推進などが必要であると考えている。

それとともに、本県の最大の課題である人口減少が、一層深刻さの度合いを増している現状を踏まえ、将来の山口県で活躍する人材の育成・確保に向けて、大学、産業界等と連携し、進学時や就職時などに県外へ流出している若者の県内定着を促進する取組も強化していく必要があると考えている。

本日は、「教育大綱」及び「来年度の重点取組方針」の案についてお諮りするとともに、「令和5年度の重点取組方針」の主要関連事業について取組状況を御報告させていただくこととしている。委員の皆様には、人づくりの取組の充実や若者の県内定着の促進等に向けて、忌憚のない御意見、御提案を賜りますようお願いいたします。

5 議事概要（議事進行：知事）※委員発言：● 事務局説明等：○

- (1) 山口県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（案）について
- (2) 令和5年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について
- (3) 令和6年度重点取組方針（案）について

○事務局から別添資料に沿って説明。

●佐野委員

教育大綱案は、様々な計画の中でも山口県がどのような方向を目指して行くかということを示されるものだと感じている。また最近、変化の大きい時代にて状況の変化に適応する新しい取組が必要となってきたが、多くは突然、新しいものが出てくるものではなく、既存の流れの中で、しかしながら単なる延長線上ではないこれまでの枠を越えた取組が必要になっていると感じている。信念を持ってじっくりとやり続ける連続性や継続性といったものが、より意味を持つように感じている。新しい教育大綱について、より具体的な形で、「誰一人取り残されることのない多様な教育ニーズに対応した取組の推進」として、教育デジタルトランスフォーメーション（DX）という手法によって、個別最適化をどのように実現されるのかといった方向性が引き続き打ち出されていると感じる。

また、「やまぐち型地域連携教育」として、これまで進めてきたものが地域との連動性や地域との課題解決、探究というところに結びついてきたと感じている。教育委員会の全国会議の場においても、地域連携教育が普通に話題に上がり、特別なものという感じがなくなってきたと思っている。この先、「やまぐち型地域連携教育」は日本の地域の連携教育として動き出していくのではないかと感じ出している。その中で一步先に行く「やまぐち型地域連携教育」が、どのようにアドバンテージを伸ばすのか、着実な成果を打ち出せるのか、期待している。それと、この先コミュニティ・スクールはもちろん、部活動の地域移行など、「チーム学校」と言われる連携・協働の形を支える地域社会との協力がさらに不可欠になってくるものと感じている。そういった学びのサイクルが機能することは地域社会にとっても有用であり、関係者にとっても有意義な活動となることは間違いないと感じている。

ただ、持続可能な、継続的な活動を維持していくためには、教育活動に協力してくれる方に対しての組織的な配慮や財政的な支援もこれまで以上に必要ではないかと思う。様々な課題が出てくる変化の激しい状況ではあるが、課題を整理し、効果的に対応するための施策が用意されていると感じている。これらの施策が効果あるものとして、子どもたちの成長をしっかりと支える山口県の教育になることを期待している。

●村岡知事

今、DXの個別最適化はとても重要で、DXでできることの大きなものの一つだと思う。これからの部分が多いが、そこはしっかりと新しい教育大綱に沿って進めていければと思う。

また、地域連携教育も進めてきたものであり、山口県は特に全国でも誇れる

全ての公立の小中高校でも整備されているので、これをさらに伸ばしていくという部分は重要な観点だと思っている。コロナ禍でうまく活用できない時期があり、また新しい課題も生じている中でどうしていくのかということもある。また、部活動の地域移行の話もあるが、ますます地域との協働が必要というのはおっしゃるとおりだと思うので、そのあたりの仕組みや、いろいろな財政的な面も含めた措置などが必要だと思っている。我々も教育委員会と一緒に考えていきたいと思う。

●小崎委員

私は普段、萩市で地域協育ネットに関わらせていただいております。先日は教育委員として、学校視察に行かせていただいた。その中で、今一番私が感じていることは、やはり子どもたちに関わる大人の側の体制を充実させないといけないということである。読書活動の盛んな学校を視察したが、盛んなところは学校司書がしっかりいらしゃって、その方が熱い思いを持って、子どもたちと関わっておられるので、やはり子どもたちも読書に関心を持つ、本を読もうという思いが出てくるのだなというのを実感した。昨今の子どもが読書をしない、本を読まない、読書離れと言われているが、やはりそこを解決するには、そういった学校司書の方などの存在が重要になってくると思う。そういう意味では、本当に全ての学校に常勤で、学校司書の方が配置されるようになれば良いと思っている。

また、先生方や児童クラブの先生とかといろいろな話す機会があるが、本当に今、いろんな特徴を持った子どもがいるので、学校の授業の時にも担任の先生1人ではとても対応しきれないという状況にあると、いろいろなどころでお聞きする。やはり支援員であるとか、そういう大人の力が大切になってくると思うので、やはりそういうところにしっかりと予算とか人材というのを考えていただきたいと思っている。また、不登校のこともあり、そのような課題は、本当に大変な状況になってくると思っているので、しっかり対応していただきたい。私たちも地域として考えていきたいという思いがある。そのため本当に必要などころに必要な予算と人材の確保が大切だと感じている。

●村岡知事

県内の読書活動が盛んな学校視察に教育委員の皆さんで最近行かれたということだが、学校司書の配置については現状どのようになっているのか。

●繁吉教育長

全ての学校に司書等は配置しているが、会計年度任用職員として配置している場合もあり、研修を積んだうえで学校の図書室の運営を行っている。

●村岡知事

常勤ではないのか。

●繁吉教育長

会計年度任用職員として他の業務と兼ねながら配置している場合もある。

●小崎委員

1人で複数校を担当する方もおられる。

●村岡知事

承知した。そこは教育委員会と話をして考えたいと思う。あと、現在はおっしゃるとおりいろいろな特徴を持った子どもへの対応をしつつ、クラス全体を運営していかないといけない。そのような課題もあると分かったので、よく状況をお聞きしながら支援員などの適切な人員配置へ予算措置を考えていきたいと思う。

●和泉委員

親の願いとしては、子どもの可能性を伸ばすような学校であり、そういった先生につきたい、学ばせたいというところかと思う。今の山口県も含めて日本の小中高等学校の教育にはいろいろな課題が当然あるわけで、私としては一番大きな課題がいじめ・不登校の問題と思っている。そういった中で、基本方針1の中にコミュニティ・スクールや地域協育ネットの活用ということが提起されていた。是非、山口県の特徴を活かして、地域協育ネットが実際にいじめ・不登校が低減されるような機能を果たしていただけたらと期待している。

また、教員の質の問題が最近叫ばれているが、残念ながら、教員採用試験の倍率もかなり低く、そういった中で質の高い教員の確保、民間からの確保も含めて、多様な教員人材の確保に取り組んでいただけたらと思っている。こういった教員に質の低下、あるいは質に差があるということは、学校間の教育格差、地域の教育格差、施設の面も含めて教育格差につながってきているのではないかという気がしている。誰一人取り残されることのない教育ということで、基本方針2の中に記載されているが、そういった格差の是正のためにも、施設設備も含めて御協力いただけたらと思う。

その中でやはりその格差を少しでも埋めるという観点から、オンラインの授業ですとかICTの活用というのが非常にこれから重要になると思っている。端末の更新もそろそろ必要だと思いますので、各学校で問題なく使えるような環境整備、あるいはオンライン、ICT機器の活用についての教員研修等も含めて、学校の先生等に御尽力をいただければと思っている。

●村岡知事

いじめ・不登校も本当に年々深刻になる問題ですし、またコロナ禍の中でさらに深刻になっているのだろうと思っているので、様々なことを想定しなければならぬ。おっしゃるように地域協育ネットなど山口県で培われているものを、しっかりと活用できる形で、そうした課題にも対応できたらと思う。

それから教員の質の問題として、採用試験の倍率が下がっていることがある。全国的な問題で、山口県でも下がってきており、倍率が全てではないが、実際、倍率によってかなり影響を受ける部分であり、これを上げる努力は教育委員会も考えていると思うけれども、いろいろな工夫をしながら教員を目指しやすくなるような環境、目指したくなるような環境を作っていかなければいけないと思う。また一方で、いろいろなサポートという意味ではICT機器も有効に活用し

て、教育の質をしっかりと上げていくというところでも、さらなる工夫をしていかなければいけないと思う。

県全体でもデジタル化のメリット・デメリットをしっかりと押さえながら、メリットを出していこうということをやっている。教育分野でも是非そうした方向で進めていければと思っているので、また教育委員会ともよく話し合いながら進めていければと思う。

●木阪委員

私は、ウェルビーイングに注目をした。基本方針の後半に記載されているけれども、ウェルビーイングは、身体的にも精神的にも社会的にも全てに満たされている状態であるということで、今回の大綱を読み、基本方針にウェルビーイングという言葉があると考えると私の中ではスッと入ってくるような感じがした。

今後、テクノロジーがもたらす格差社会で心身を困却する方々が増えてくるかもしれないし、またいろいろ記載してあった、スキルアップに関しても明確な理由がない人はやはり渴望感が出たりするような気がする。大切なのは、今この瞬間を、生きていることを幸せに感じられることなのかなと思う。

今回、ウェルビーイングのウェルがハッピーでもなく、ベターでもベストでもなく、あえてウェルを使っているのがベストなんだという時代であるということをよく認識して、それに向けて慎重に舵取りを進めていくことが重要な時代なのかと、時代の節目なのかと感じている。それに関して我々としても一県民として大いに関心をもって押し進めていきたいと思う。

●村岡知事

ウェルビーイングは、特にデジタル化を進めていく中で注目されている考え方であり、昨年、県としてもその道の専門家に講演をしてもらったりしている。日本の権威の方は慶応大学の前野先生といわれるが、今度、武蔵野大学にウェルビーイング学部が創設され、その学部長にも就任される予定である。その方の話にも私も非常に共感したのだが、実は前野先生は山口県の出身。この山口のことも非常に思いを持たれており、また是非来てくださいと話をした。県としてもウェルビーイングをひとつ柱に据えて、教育だけでなく県民の皆さまがより良く、満足感を得ながら生きていけるよう、どのような施策をするべきなのかということ意識して組み立てていこうと思っている。前野先生にもいろいろサポートしてもらおう機会も作りたいと思っている。

教育の面でも、重要な観点だと思っており、これからの時代を生きていく子どもたちのウェルビーイングというのを考えて取組をしていきたいと思う。もちろん民間の方でもそうした取組が進んでいるが、最近海外だとCIOとかCFOのように、CWOを設けているらしく、そのWはウェルビーイングを意味している。企業の従業員がいかに幸せに、満足感を持って働けるかという、プライベートも含めて、いかに幸せに暮らしていけるのかというところをしっかりとマネジメントするために、CWOを設けているそうである。教育に限らず、企業や我々行政などが、いろいろな面でそういったものを求められたりする時代であると思っている。そういったこともよく研究しながら効果的な取組をしていきたいと

思っているので、教育の方でもしっかり展開できればと思う。

●藤田委員

教育大綱案は、とても素晴らしいものができていると思う。ただ、大人が読んで分かるものでなく、教育を受ける子どもたちにも分かりやすいように作っていただけたらいいと思う。漠然と思ったのが、山口県全体を一つの家庭として、知事を大黒柱、皆さんを一つの家庭として考えた時に、子どもたちにどういう子になってほしいのかという視点を踏まえながら、教育大綱を作っていたらいいと思う。教育委員を拝命し、7月に初めて「ともに一ティング」に参加した時に美祢市の教育長が言われていたのが、「教育大綱にはじめの記載があるが、そこに関して「命」という言葉が入ってない」ということを言われていて、なるほどと思った。これだと資料2の6頁、基本方針1である、「豊かな心、健やかな体の育成」という部分で、何かしら命の大切さ、自分がなぜ生まれてきたのか、なぜ生きていけないといけないのかという大切なことを教えることも、盛り込んでいただければと思う。

先程、学校視察の話が出て、読書の話があったが、私も本当に本が好きで、親が共働きで子どもの頃はゲームとか買ってもらえなかったのに本だけは与えられて読む習慣ができ、それが今も続いており親にも感謝したいところである。下関市の向井小学校の図書室を拝見して、とても良かった。私が子どもだったら、図書室に入り浸るだろうなというような環境でとても良かったのだが、校長先生と意見交換した時に言われていたのが、今、学校は一斉下校になっているので、放課後に図書室の開放がされてないというのがあり、私はそのことを知らなかった。昔は放課後、図書室とかは入れたと思うのだが、本を読みたくても図書室が解放されてなければ読めないと思う。そのため少し柔軟な対応をしていただけたらなと思っている。なぜなら、今は共働きの家庭も多いので、学校で目が届く場所に子どもがいてくれた方が保護者の方も安心すると思う。また、今も同じか分からないが、昔はクラスに入れられない子が、保健室登校とかあったと思うが、そのような子たちが保健室ではなくて、図書室に行ったら本に興味がなくとも、本の面白さに目覚めるかもしれないという可能性もあるのではないかなと思う。

安全とかについて、交通安全も大事だが、今年の夏に特に感じたのが、水の事故がとても多かったことである。私が海に関係する仕事をしているので、どうしてもそういった事故が、意識的に目に入ってしまうのだが、水難事故に対する学校の授業や課外授業などの取組をしていただけたらと思う。

また、児童養護施設は高校生までが利用できると思うが、その後は就職すると、施設に入所できなくなる。そういった卒業後も相談できるような、里親的な場所の取組ができれば良いのではないかと考えている。やはり居場所があるというのはすごく大事だと思う。そのためそういった視点も必要としている子どもたちがいるのではないかと感じている。

●村岡知事

最初のお話にあった、分かりやすさについては、確かに行政の作る文書はどうしても行政向けで子どもたちとかが見た上では分かりにくいと思う。資料・

文書によってはパンフレットを作るなど、分かりやすくすることもしているが、教育委員会においても分かりやすさを目指したものが何かあるのだろうか。教育振興基本計画の子ども版など作るのか。

●繁吉教育長

教育振興基本計画は現在策定中であり、概要版の作成を予定している。

●村岡知事

今、行政は、子どもが分かるように作るのが苦手だから、例えばChatGPTにお願いして作るとか。「子どもや中学生でも分かる文章に書き換えてください。」と指示すると、上手くできたりするかもしれない。そういうのを考えながらやっていると良いと思う。

それから、命の大事さはおっしゃるとおりで、いじめとか不登校とか、本当に命の大切さをまずしっかりとよく分からせるということをやっていかなければいけない。大変なテーマだと思っている。教育分野の指導内容に係わるもののため、大綱の中に記載すべきかは分からないが、とても重要だと感じている。いじめとか不登校などの、いろいろな根っこにある部分として非常に重要な部分だと思う。

それから図書館の開放の話は、放課後の居場所というと、放課後児童クラブとかが一応受け皿になっている。学校図書館は、一斉下校でもう閉まってしまうと。

●中村教育庁審議監

まさに働き方改革で教員をこの時間になったら帰そうということが先行しすぎて、そういう傾向にあるのだが、そこをなんとか、子どもの居場所をいかに作っていくかということが、大きな課題にもなっている。今御指摘いただいたこともあるので、見直しを図っていきたいと思っている。

●村岡知事

児童養護施設は退所した後、まだ何かサポート体制というのがあるのか。

●繁吉教育長

大学等へ進学したらほとんど無いのではないかと思う。

●村岡知事

こちらはまた現状を把握して考える。

●繁吉教育長

県教委の方でも、本日御提案がありました教育大綱であるとか重点取組方針、こちらに沿って、教育の充実に向けて取組を進めて行きたいと思っている。特に今日は、若者の県内就職の促進について発言をさせていただこうと思っている。

冒頭の知事の挨拶の中にもあったが、県政の最重要課題である人口減少の克服

に向けて、高校生等の県内就職であるとか、県内定着を進めることは、県教委としても大変重要なことだと思っている。県教委では高校生等の県内就職の割合、就職比率を90%にするという目標を教育振興基本計画の中にも掲げており、今後、就職支援に係る取組をさらに充実させていこうと考えている。具体的には生徒・保護者に対しても、高校の入学後早い時期から積極的な企業情報を提供するとか、就業体験も含めて体験型のセミナー等を実施することで、より県内で暮らし、働くことについて考える機会を充実することにより、県内産業への理解促進を一層図っていきたいと考えている。加えて、知事にも前にお話したが、生徒の就職支援に取り組んでいる就職サポーターの活動時間や配置の拡充を行いたいと考えている。今までは面接等を高校2年生の後半から3年生の前半に行ってきたが、これを高校1年生も含めた早い時期から実施することや、生徒一人ひとりの希望や適性に応じた求人開拓・マッチング等により、きめ細かく支援できると考えている。今後とも、知事部局などの関係機関と緊密に連携して、こうした取組の具体化を通じて、高校生等の主体的な県内就職の実現に向けて全力で取り組んでいきたいと思っているので、御支援のほどよろしくお願いしたい。

●村岡知事

もちろん支援をしっかりとやっていきたいと思っているし、県内の人手不足は大変なものであり、できるだけ県内で人材がしっかりと確保できるようにという企業の皆さんのニーズも非常に強いものがあるため、そこは教育長にお願いしている。そういった中で、県の教育委員会の方でも高校を卒業して県内で就職される方の就職率が8割から84、85%ぐらいまで段々と上げていただいて、本当に大変感謝しているが、全国的には、トップテンぐらいだと90%とかのところがあるので、もう少し頑張っていたきたいと強くお願いして、いろいろと考えていただき、努めてもらっており大変感謝をしている。人手不足はこれからもずっと続くと思うので、腰を入れてさらにやっていかなければいけない。教育委員会だけでなく、知事部局のほうでもいろんな面でやっていかなければいけないと考えているので、まずしっかりと実行していくということと一緒に進めたいと思う。よろしくお願いしたい。

●村岡知事

それではまだ時間があるので、ここからは自由に手を挙げていただいて、発言をいただけたらと思うが、いかがか。

●小崎委員

令和5年度の取組状況について、前回の会議でも話をさせていただいたが、コロナが落ち着いてきて、子どもたちがリアルな体験ができる機会がすごく増えてきて、そのような事業をたくさん盛り込んでくださっているの、本当にありがたいと思っている。

特に「地域と連携したリアルな体験活動充実事業」について、「島じゅうキャンパス」というツアーがあり、本当にすごく面白いツアーだなと思っている。私自身、こういう取組があり、こういう内容だったというのを知らなかつ

たので、多分、県民の方たちも知らないと思う。県が主催して子どもたちがこういうことをやっているということをもっとアピールすれば良いのにとすごく思う。そのため、子どもたちのツアーでの様子や感想を発表する場など、子どもたちの様子をアピールする場を作っていただきたいなど感じている。

あと、「薩長土肥連携高校生ふるさと探求事業」は、以前からある事業だと思うが、私もこれに参加したいくらい、すごく魅力的な事業だと感じている。これは10月の7日～9日に実施なので、テレビ局がついて行き、その特集を組めば良いのにと感じた。こういう企画はこの4県でしかできない事業なので、どんどんアピールして、県民みんなが子どもたちの様子が知ることができれば良いのではないかと思う。

●村岡知事

薩長土肥は維新150年の時に4県で始まり、それぞれの県が人材育成に特に力を入れたことが明治維新に繋がったという共通なところから、それを今またこの時代にやっていきましょうという話で始めたものである。今年は高知県で、来年は山口県でと持ち回りで実施している。これはテレビ局などにも紹介してもらい、テレビも行くのならば向こうのテレビ局と同じ系列で連携するなど、いろいろできるのではないかと思う。

●繁吉教育長

「リアルな体験事業」は、文部科学省のモデル事業として実施している「島じゅうキャンパス」チャレンジ&エコツアーや、やまぐちアドベンチャーキャンプ指導者研修会を、この冬にもう1回実施するようになっている。

●村岡知事

周知はどのようにしているのか。

●繁吉教育長

これは学校を通じて周知し、応募をかけている。

●村岡知事

案内ではなく、こんなに良い活動だったという報告会などはあるのか。

●繁吉教育長

体験活動の成果発表会を年度末に開催予定である。

●村岡知事

いつも県の広報などでも思うのだが、どうしても冊子にしがちで、多分あまり読まれていないのではないかと感じている。それならば動画などを撮って編集し、Youtubeなどで見られるようにしてはどうか。せつかく外での活動なので、文章を読むのではなく、見て分かるようにすれば良いのにと思う。

●繁吉教育長

教育委員会の前室に「リアルな体験事業」の活動状況について写真入りで掲示しているが、もう少し周知を図れるようにしていけたらと思う。

●藤田委員

インスタやYoutubeのショート動画などが良いと思う。若い子たちは「タイプ」、いわゆるタイムパフォーマンスを大事にしている、長い動画は見ない。長い動画だけをあげるのではなくて、ショートであげていくというのも良いのではないかと思う。

●村岡知事

是非、教育委員会でも検討していただければと思う。この間、移住者の冊子を見て、一人1頁で、写真や文字での紹介になっているが、その活動などを動画とかで見てもらうのも良いのではないかという話をし、ちょっと直してもらうことにしている。取組によって媒体は何が良いのかというのはあると思うが、ビジュアル的に、見て分かる方が絶対に説得力があると思う。実際に感じられることも多い。そのようにやっていると良いのではないか。

●藤田委員

ハッシュタグを付けて、参加した子どもたちにSNS等にあげてもらったりすると良いかもしれない。

●村岡知事

なるほど、考えていきたい。他にいかがか。

●佐野委員

今回デジタルトランスフォーメーションが柱になっていると思う。これは山口県のような地域では小回りを利かせるためには非常に有効な、武器になるのではないかと思う。これは村岡知事が率先して、計画を前倒して推し進められたもので、本当にすごいことだと思っているけれども、全国的な動きの中で、明らかなエビデンスを求めているがためにICT環境への投資が滞ってしまわないかと心配をしているところがある。そういった場合に、山口県独自でもこの動きは続けていく必要があるのではないかと思うので、そのあたり、知事のお考えをお聞かせいただければと思う。

●村岡知事

私は、どんどん進めていくべきだと思っているが、やはりその成果というのを、子どもたちや保護者が分からないといけないと思う。そのあたりをもっと感じられるようになると良い。だいぶ前の日経新聞に出ていたが、山口県の小学校での端末の利用、日常使いの率は全国1位で、2位が東京都。東京都を抜いての山口県である。日常使いを、県教育委員会もそうだが、市町教育委員会の皆さんも非常に一生懸命頑張っていて、全国1位という結果がある。そういう日常で使うというのは、他の県に先んじてできていると思っている。その中で、

やはり生徒や保護者がその良さを感じられるような工夫をまた取り組んでいくということが大事ではないかと思う。そうして、これは成果が上がって良いねということを感じてもらえれば、それがまた声として上がってきて、しっかりと進めていこうとなるので、今までやってきたことの成果でもあるけれども、その次に進めていく上でも、そういったものをさらに利用の質を上げていくこと、さらに取り組んでいくということが大切だと思う。

いろいろな教材なども段々変わってきていて、最近ではより分かりやすいとか、例えば理科の実験では、いろいろ1回1回やってみただけだと全部忘れてしまうものも、教科書や教材で二次元バーコードから見るができる教材があればすごく良いなと思う。いずれにしてもそのような分かりやすい成果というの意識して作っていかなければいけない。今、我々も教育に限らずいろいろな面で、デジタルの実装をしっかりとやっていこうと県全体で進めているが、いろいろなトライアルでの取組が、実際に社会にきちんと組み込まれて、こんなに便利になったとか、そういうものが肌で感じられるようにしていくものを、もうそろそろ出していく、そういうステージに入っていかなければいけないだろうと思っている。同じように教育の面でも、いろいろな整備をして、その成果が分かって、それを意識してやっていかなければいけないと思うので、そのあたり、また予算の中でも議論しながら取り組みたい。

●村岡知事

他にいかがか。

●木阪委員

先程、知事の方からウェルビーイング学部の話も出たのだが、大学などでは割と新設とか、新しい学部・学科のニュースがよく出ていて、それが少し「ええっ」と思うものもあれば、「ネーミングはどうか」と思うところもありますが、時代を生き残るといふ、そういう意気込みといふのをすごく感じます。

県の高校のレベルで考えた時に、一般的には普通科とか特進だとかというのがあり、普通という名前は非常に尊いものでもあるし、別に違和感はないのだが、今後のことを考えた時に、やはり山口県においても、先程の学部・学科名とか中身とか、そういったものへの新しい取組、あまり奇をてらってはいけないと思うが、そういうところの感覚を研ぎ澄ませて、今後、再編とかもあるが、新しいスタイルになっていく学校に向けて、そこに進む生徒たちとか、保護者たちが、本当に希望を持てるような、そういう学部・学科だとか、より特色のあるものができたら良いなと期待をしている。

●繁吉教育長

高校の普通科改革も押し進めていかないといけないし、特色ある学科というものもしっかり打ち出していければなと思っている。

●村岡知事

探究科は今から変わるのか。

●繁吉教育長

探究科はこれからである。

●村岡知事

話は尽きませんが、他はよろしいか。

●和泉委員

「新たな時代の人づくり推進方針」を見ましたら、山尾庸三、「長州ファイブ」で東大工学部を作った人の言葉で「工業を発展させるためには、まず人を育てることが重要である」ということで、地域とかそういうのを越えて、日本のためになっていくような勢いで人材育成したと思うのだが、この教育大綱とか重点取組方針とか、昔のこのような勢いが長州にもっと欲しいという気はする。大学進学率だが、全国でも下から数えた方に位置するということもある。エントリー数を調べると、旧帝大に進学している人の割合も減っている県が15県ぐらいある中で、そのうちの一つだということもあり、県教委の方でもいろいろと頑張っているみたいであるが、勢いをつけて頑張りたいと思っている。

●村岡知事

例えば流出の理由で一つ、高校に行く段階の前に流出しているというところがあるが、そこは堰き止めるというか、下関と岩国で止めるというのか、見直しをしていく。あと進学率の目標だが、これはなかなか難しいところである。県内に就職先の工業がしっかり盛んなので、高校を卒業して県内で働いて、将来がきちんと描けるといえるところがあるのは良さでもあるので、それが大学に行かずに高校を卒業して就職したら良いということにもなっているのだと思う。それはそれで、私とすれば有り難い面もあるのだが、難しいところもある。進学率を上げようというのはあるのか。

●繁吉教育長

進学率は少しずつ上がっている。

●村岡知事

ここまで上げようという目標みたいなものはあるのか。

●繁吉教育長

高校生の主体的な進路選択ということになる。

●村岡知事

ここは悩ましいところである。おっしゃることはよく分かるし、加えて、いろいろな話が尽きないのだが、また別の機会にお話できればと思うので、今日のところはよろしいか。

以上で終わらせていただきたいと思うが、改めて、今日は教育大綱と令和6年度の重点取組方針についてお諮りをさせていただいた。そこで先ほどの大綱

についての「命」の記述についてだが、これは知事部局で作るものなので、教育の内容に入ることというのは記載するのは難しいのではないかと思う。教育委員会でしっかりと対応されるのは大事だと思うが、いかがか。

●繁吉教育長

しっかりと取り組んでいきたいと思う。

●村岡知事

それでは、「教育大綱」、「令和6年度重点取組方針」について、本案のとおり進めていくこととして、よろしいか。

(委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり)

それでは、いただいた御意見を十分に活かして、今後の事業の推進、施策の構築をしっかりと進めていきたいと思う。

(3) その他

●村岡知事

本日は、「教育大綱」及び「令和6年度重点取組方針」の案についてお諮りし、御了解をいただいた。また、「令和5年度の重点取組方針」の取組状況についても御報告させていただいた。

本日、皆様からいただいた御意見、御提言をしっかりと活かして、来年度の具体的な取組内容等について、これからさらに検討を深めてまいる。

教育をとりまく課題は多岐にわたり、いろいろと深刻化している問題もある。そうした中で、教育を一層充実させていくために、また引き続き教育委員の皆様方とこうした意見交換もしながら我々としても努力をし、検討していきたいと思っている。

皆様におかれても、引き続き、教育委員としてのお立場から、御理解、御協力を賜ることをお願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会（事務局）

(以上)

※ 上記については、事務局がまとめたものです。